

前回審査会（平成 31 年 4 月 19 日）における指摘事項及び都市計画決定権者の見解

番号	指 摘 事 項	都 市 計 画 決 定 権 者 の 見 解
騒音及び超低周波音、振動		
1	右折渋滞などを考慮しながら、ごみ収集車の流入の経路などの運搬体制を検討し、きめ細かく対応していただきたい。	<p>主要走行経路における現況及び将来の車両台数については、別添 1 のとおりです。</p> <p>廃棄物等運搬車両の主要走行経路は、県道 405 号、406 号及び市道藤並町・天伯町 41 号線であり、県道 405 号の交通量の多い地点及び運搬車両が最も集中する地点に調査箇所を設定しました。将来は施設規模が小さくなることから、車両台数は現況より減少します。ただし、国道 23 号バイパス七根インターから一の沢交差点を通行する経路については、将来は田原市の運搬車両が増加しますが、施設規模縮小に伴う豊橋市の運搬車両の減少と、豊橋市のし尿・浄化槽汚泥運搬車両がなくなることにより、車両台数は現況より減少します。将来においても主要走行経路は現況と同様の経路を考慮しており、このような条件においてシミュレーションを行い対応しております。なお、現況では運搬車両に起因する恒常的な渋滞は発生していません。</p>
地盤・土壌、地下水の状況及び地下水質		
2 [※]	新施設においては、稼働中でも土壌調査ができるよう、あらかじめ土壌のモニタリング地点を設けておくことはできないか。	<p>施設からの土壌汚染については、ごみピット、灰ピット、水処理槽及び集排水管等の漏水によるものが考えられ、これらの状況を把握するためには、設備の下部にモニタリング地点を設ける必要があります。しかしながら、これらの設備の下部に土壌採取用のモニタリング地点を設けることは、当該設備の保全及び作業上の安全確保の観点から難しいため、施設の建設及び維持管理にあたり、漏水防止対策を徹底します。なお、施設の解体・撤去時において、土壌汚染対策法に基づいて調査を実施し、必要な対策を講じます。</p>

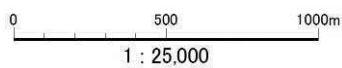
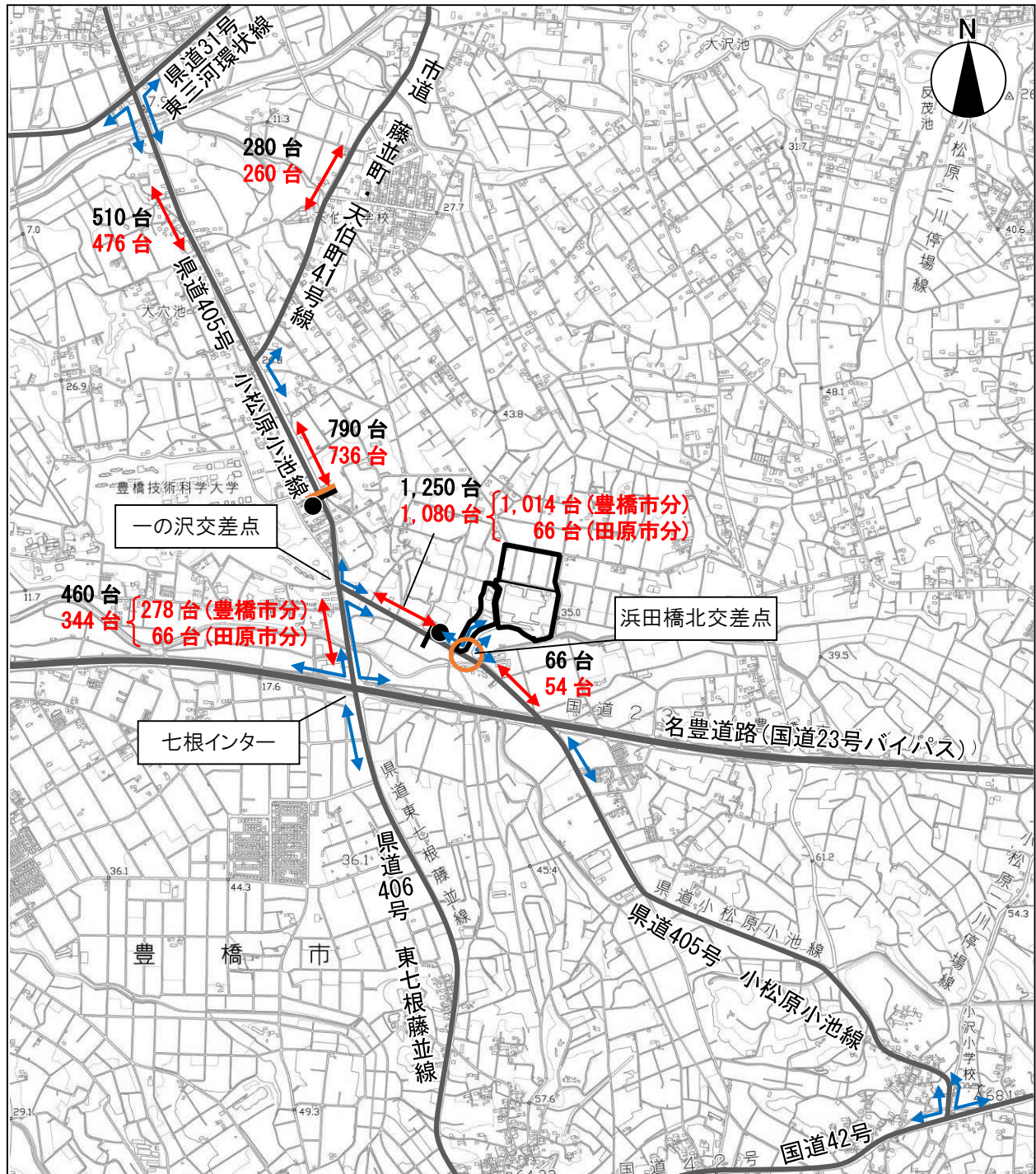
※ 前回審査会（平成 31 年 4 月 19 日）後にあった追加の指摘事項

番号	指 摘 事 項	都 市 計 画 決 定 権 者 の 見 解
3※	<p>新施設の建設と既存施設の解体時期はどのような関係になるか。既存施設の敷地内における土壌の汚染状況が把握できない条件で、新施設の建設に際し、どのような環境配慮・対策を行う予定か。地下水の現地調査結果では、季節により水位変動が3mあり、必ずしも北側から南側の方向にしか水が流れないとは言いきれないのではないか。</p>	<p>新施設を建設し、供用開始後に既存施設を解体します。建設工事に際しては、止水性が高い山留壁工法を採用し、周辺地下水位の低下を防止して流向が変わらないよう対策を行います。</p> <p>なお、事業実施区域は北から南に向かって15m程度低くなっており、南側に比留茂川が流れています。また、地質調査結果の地下水位（別添2のとおり）も北から南に向けて低くなっているため、地下水は概ね北から南に流れていると考えます。</p>
動物、植物		
4	<p>事業実施区域は斜面になっていて、新しく建設する施設が事業実施区域南側の調整池より高い位置になる。このため、地下水の調整池へのしみ出しの程度に影響を及ぼす可能性があるため、地下水による影響の調査についても検討いただきたい。</p>	<p>建設工事では、地下構造物（ごみピット）の設置に伴う掘削に止水性が高い山留壁工法を採用し、周辺地下水位の低下を防止することから、調整池等への地下水のしみ出しの影響は小さいと考えます。また、供用時では、ごみピット及び基礎は点構造物であり、ごみピット周囲の地下水はごみピットを回り込んで移動すると考えられることから、調整池等への地下水のしみ出しの影響は小さいと考えます。しかしながら、御指摘を踏まえ、地下水位を確認しながら工事を実施します。</p>
5	<p>事業実施区域の南側の調整池や植林地について、解体後の利用計画を踏まえた評価が必要ではないか。</p>	<p>事業実施区域南側の調整池及び隣接植林地付近の資源化センターの敷地は、現在は概ね建屋等の構造物や通路等の舗装面となっており、施設解体後も調整池及び隣接植林地の状況は現状と大きな変化はない見込みです。跡地利用計画においても調整池や隣接植林地の環境が大きく変化しないよう留意します。なお、跡地利用は、周辺環境や地域性など立地を活かし、有効な利用形態を十分考慮して検討します。</p>

※ 前回審査会（平成31年4月19日）後にあった追加の指摘事項

番号	指 摘 事 項	都 市 計 画 決 定 権 者 の 見 解
6		希少種の位置情報に関する内容であるため、非公開
7		

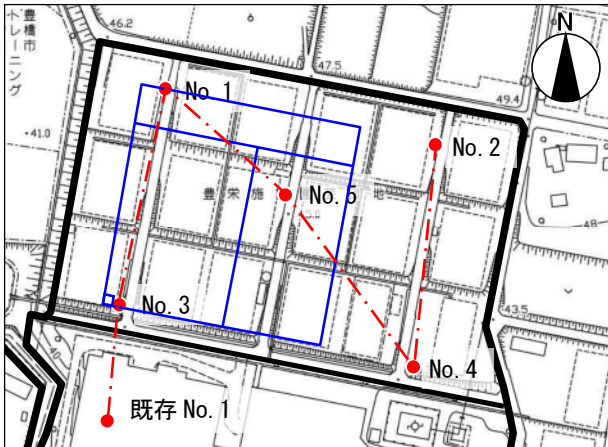
主要走行道路及び主要走行経路図



○台 : 現状の搬入出車両の平均走行台数 (往復)
 ○台 : 将来の搬入出車両の平均走行台数 (往復)
 ※豊橋市分の将来の走行割合は現状と同様
 ※田原市分は全て名豊道路経由で西側から進入

凡例	
	: 事業実施区域
	: 主要走行道路
	: 廃棄物等運搬車両主要走行経路
	: 道路交通騒音、振動調査地点
	: 道路構造調査地点
	: 交通量調査地点

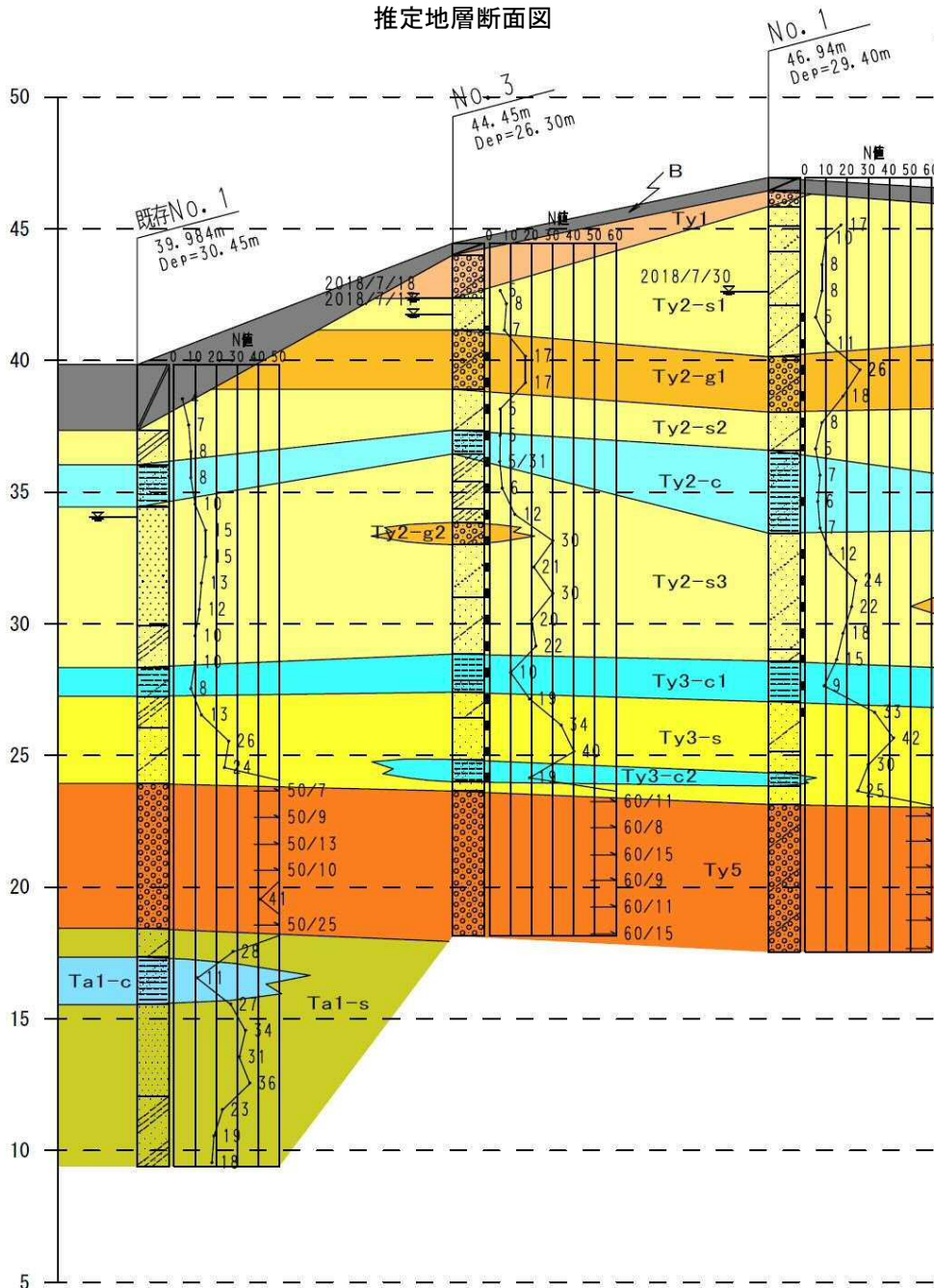
ボーリング調査地点図



地質層序表

地質時代	地層名		地層記号	層相	
現世	盛土		B	礫質土・砂質土	
第四紀	更新世	豊橋層	天白原礫部層	Ty1	礫質土
				Ty2-s1	砂質土
				Ty2-g1	礫質土
				Ty2-s2	砂質土
				Ty2-c	粘性土
				Ty2-s3	砂質土
			寺沢泥部層	Ty2-g2	礫質土
				Ty3-c1	粘性土
				Ty3-s	砂質土
				Ty3-c2	粘性土
			豊南礫部層	Ty5	礫質土
			豊島砂礫部層	Ta1-s	砂質土
				Ta1-c	粘性土
	赤沢泥部層	Ta3	粘性土		
	伊古部礫部層	Ta4	礫質土		

推定地層断面図



希少種の位置情報に関する内容であるため、非公開